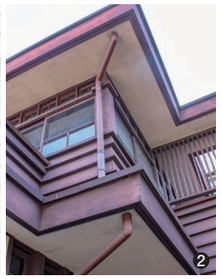
歴史的ツーバイフォー建築物を訪ねて―明治～昭和初期―
第四回／旧近藤賢二別邸

# F・L・ライトの高弟・遠藤新の〈ライト式〉建築

内田 青蔵（神奈川大学建築学部教授）



DATA
旧近藤賢二別邸
竣工年／1925（大正14）年
所在地／神奈川県藤沢市
設計者／遠藤 新

## アメリカ建築の導入とその定着

戦前期にわが国で流行した建築様式は多種多様だ。明治末期から大正期の初めは、世紀末芸術のアール・ヌーヴォーやウィーンで生れたセセッションが流行した。このセセッションの特徴である幾何学的なデザインは、大正期になるとオーダーの彫塑的柱頭を幾何学的なものへと変えるなど、歴史主義建築にも影響を与えた。

また、この頃、住宅建築に新しい様式が出現した。半屋外空間であるベランダを備えたバンガロー様式や赤瓦と白い荒壁を特徴とするスパニッシュ様式がアメリカから導入された。アメリカ建築の導入は新しい傾向で、明治期は主にヨーロッパから新様式が導入されていたからである。しかし、大正期頃からアメリカ生まれの建築様式も積極的に導入され始めたのである。

アメリカ建築の導入を象徴する建築は、1923（大正12）年竣工のアメリカ人建築家F・L・ライトの設計した帝国ホテルであり、1年前に中央棟を完成させていた自由学園明日館である。水平線を強調したライト独特の斬新なデザインは、日本の伝統建築とも相通じるものがあり、やがて〈ライト式〉建築ブームを生み出した。

## 遠藤新の〈ライト式〉建築

ライト式建築ブームを牽引したのは、ライトの弟子、遠藤新。アメリカに渡ってライトの下で帝国ホテルの設計を行い、また、完成前に帰国したライトに代わって帝国ホテルや自由学園、そして神戸の山邑邸を完成させたのも遠藤新だ。

多くの作品を残した遠藤の大正末から昭和初期の作品は、師であるライトの作風の影響を強く受け、まさしく〈ライト式〉建築だった。その中で、現存し、その独特な魅力を今に伝える住宅が1925（大正14）年の旧近藤賢二別邸であり、1928（昭和3）年の旧加地利夫別邸だ。とりわけ旧近藤別邸は、ライト式建築の原型であるライトの生み出した〝プレーリーハウス（草原住宅）〟のデザインを駆使し、しかもその構造もツーバイフォー工法を採用しているのだ。

## 工法もアメリカ式を取り入れた〈ライト式〉建築の旧近藤賢二別邸

朝日石綿工業株式会社社長であった近藤賢二は、10人の子供たちが楽しめる別邸を建てた。辻堂東海岸の松林の中に立つ水平線を強調した個性的なその姿は、木造2階建てとは思えないほど低く水平に広がりを見せていた。緩やかな勾配の屋根の軒先の幅広の鼻隠し板と胴蛇腹代わりの幅広の板が建物を引き締め、水平線を強調している。外壁もアメリカ建築らしく下見板張り。しかも、上下に重ねた板材の下部に細い角材を打ち付けることで、水平線が繰り返して表現されている。近藤別邸の独特の処理だ。

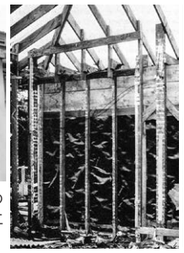
板とガラスを組み合わせた幾何学的デザインの玄関ドアを開けて内部に入ると、暖炉とソファーが向き合うように配された細長い大きな居間兼食堂だ。暖炉は長く低い形状で、向き合うソファーも長い。また、その背後の開口部も水平に広がるなど、水平線の強調が内外に見て取れる。

こうしたライト式のデザインの展開とともに、遠藤は構造においても独自の工夫を行った。関東大震災直後でもあったことから、建物の耐震性を考え、建物全体を軽くし、かつ、建物全体が一体となるようにアメリカで生まれたツーバイフォー工法の採用である。

アメリカに渡り、ライトのもとで建築を学び、また、ツーバイフォー工法による自由学園の現場も担当していた遠藤は、その豊かな経験から、土台や柱には角材を用いつつも、屋根を支える小屋部分を中心に板材を駆使した軽やかで一体の構造を試みたのである。

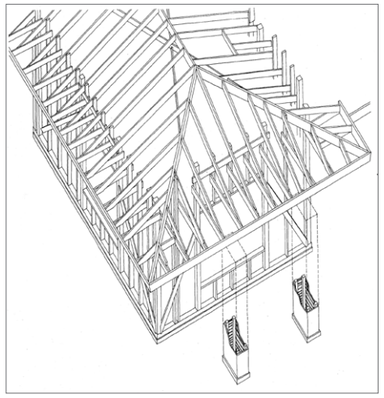
1980（昭和55）年、この建物は取り壊しが決まったが、惜しむ近隣主婦らが保存運動を展開し、翌年、藤沢市の賛同を得て移築保存が決定した。現在、藤沢市民会館前に移築され、カフェとしてその魅力を伝えている。

① 水平線を強調した玄関側の外観。中央部のちょっとした窪みが玄関。まさに別邸ゆえの玄関構えといえる。
② 玄関の見上げ。屋根の鼻隠し板や外壁の下見板、その下部に打たれた細い角材が水平線を強調している。
③ 玄関扉。ガラスと板材の幾何学的組み合わせがモダンさを感じさせる。
④ 南側の外観。パーゴラがあり、建物と庭をつなぐ。
⑤ 西側に配置された居間兼食堂を玄関ホールから見る。突き当りの部屋は畳敷の寝室。
⑥ 居間兼食堂の暖炉。暖炉の形状も水平線を感じさせる。
⑦ 寝室として使われていた和室。押入れと床の間がある。床の間の脇には菱形の窓があり、その下には付け書院風の細長いテーブルが配され、新しい和室の創出といえる。



角材による柱が配されているが、他の部材は大半が板材。ツーバイフォー工法を基本としている様子が窺える。

和室の構造アイソメ



photo・アイソメ：井上祐一

参考文献：井上祐一『ライト式建築』柏書房　2017年
井上祐一「旧近藤邸移築・保存の経緯」『住宅建築』建築資料研究社　1981年10月号
遠藤　楽「近藤邸」『住宅建築』建築資料研究社　1981年10月号